

研究授業～その2～：「子どもたちが主役の授業【わ・さ・び】」を目指して！

教育研究所2回目の研究授業を10月19（木）に祝吉中の浜松泰光教諭が行いました。研究授業の目的は、今回も「子どもたちが主役の授業」の実現です。国語教科書の解説文から得た知識をもとに俳句を詠み味わい、俳句の創作に取り組む学習です。手だてとして、ICT 職員から提案された Google サイトを活用して、個人の学習の歩みを可視化することで、簡単に互いの考えを共有して学びを進めることができるように工夫していました。事後研では、Jamboard の有用性を推す意見も出ましたが、Google サイトで生徒の学びの自由度が広がったとの意見も出るなど、まだまだ ICT を活用した「子どもたちが主役の授業」は深まっていきそうです。



めあて、学習活動の確認



班での意見の交流



Google サイトを活用した推敲

第3学年国語科学習指導案

都城市立祝吉中学校
授業者 浜松 泰光

1 単元名 俳句の可能性／俳句を味わう

5 本時の目標

- 語句や表現の仕方を考え、自分の思いが分かりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。

【思考・判断・表現】

6 学習指導過程

段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点	評価基準 【観点】(評価の方法)	ICT 活用	参観の 視点
導入 3分	1 本時のめあてと活動の流れを確認する。	⑤ 前時までの学習活動を振り返らせながら、本時の学習の見通しをもたせる。			
	めあて 俳句を鑑賞し、自分の表現に生かそう。				
展開 37分	2 事前投票で選ばれた3句を紹介する。 3 それぞれの句を評価の観点をもとに、個人で鑑賞する。 4 4人班で意見を交流する。	⑥ 学習した俳句の知識を振り返らせながら、俳句を分析させる。 ⑦ 自分たちで決めた評価の観点をもとに、俳句を鑑賞させる。 ・評価の観点 ①季語が主役になっているか。 ②リズムがあるか。(五・七・五等) ③五感を使っているか。 ④情景(映像)が思い浮かぶか。 ⑤表現技法を使っているか。(切れ字、体言止め、比喩等) ⑥言葉を工夫しているか。(選び方・語順)			
	5 自分の俳句の推敲を行う。	○ 友達や自分の俳句を参考にして、異なる視点や語句を工夫するなどして、自分の俳句を推敲させる。		手立て①	Google サイトは生徒の思考整理の有効であったか。
	6 推敲した作品を理由とともに共有する。	⑧ 推敲前後を比較して、工夫した点を書かせる。			

本通信についてのお問合せ

■都城市教育研究所 市役所南別館3階 電話：23-7167（所長直通）23-9544（学校教育課）■